

- 1/カルピナスのアーチ。どのように運ぶのだろうか？
- 2/イチイのトビアリー。1本の木とは思えないユニークな形。
- 3/カルピナスのピラー（柱）。細く長く。
- 4/菩提樹のエスベリア仕立て。個人宅にも需要がある。日除けとして活躍するし、落葉後は枝も美しい。だから欲しいのは「今」。



3レイヤーに仕立てた木。木の性質を知りつくしているからこそできる技。



#### DATA

ファンデンベルク社  
Van den Berk  
www.vdberk.com

#### PROFILE

朝山和代  
Kazuyo Asayama  
(有) ATJ、アトリエフローラ  
モア代表。花に関するプロモーションの企画進行や苗、種子、球根の輸入、フラワーデザイン教室など幅広く活躍。  
www.floramor.net

コ型の建物に入る。これは高さが17mもある出荷場だ。そこで出荷を待つ木々のなんと大きいこと！そして大きいだけでなく、なんとユニークな形！どれだけの年月がかかっているのか？どうやって掘り上げるのか？そして運ぶのか？とにかく一瞬で疑問だらけになってしまった。何しろ農場には樹齢数十年のものが見渡す限り植えられている。130歳という木を納めたこともあるという。長さ25m、幅4mの巨大な木を運ぶことができたのだ。3年もの時間をかけた手作りの巨大な根掘り機を見て、さらに驚きである。世界に1つ、とヨハンはうれしそうに説明する。その機械で掘ったであろう、とんでもない大きさのシャクナゲも出荷を待っていた。

日除けになるように仕立てたり、

キユーブ型やコーン型、らせん型、バラソル型などを作る技術にも目が点である。日本では「玉散らし」と呼ばれる形を作り、ボンサイと呼んでいた。大きな木を植えると、すでにずっと前からそこにあつたように見え、2〜3年経てば、より環境に馴染んでくる。新しい家を建てても苗木を植えていたのでは、思うように育ってくれるのはわからない。顧客が大きな木をほしいのは「今」なのだ。そのため、プライベーターな需要も多い。大木は深く植えずに浅く植える。大きいからといって深く植えると、酸素が根に届かないので根が張らなくなって枯れてしまうのだそうだ。水のやりすぎも根が伸びない。大きな木はデリケートだ。

3年かかって完成した堀上機はオンリーワン。



ルーブル美術館、チエルシーフラ

ワシヨー、ユーロデザイニ、キユーケンホフ、エデンプロジェクトなど、ヨーロッパの名所、といわれるところにファンデンベルクあり。世界中から種子や植物を集めて試作も行っている。日本のものも多いという。これらのすばらしい大木を日本に輸入することができないのは、この上なく残念である。